

薬剤師確保の支援体制構築推進事業

令和6年度当初予算額 24百万円

1 事業の目的

令和3年6月に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」では、薬剤師の従事先には地域偏在や業態偏在があり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であることが指摘されている。「第8次医療計画等に関する検討会」においても薬剤師確保の取組の必要性が指摘され、医療計画作成指針において、医療従事者の確保等の記載に当たって踏まえるべき観点として、地域の実情に応じた薬剤師確保策の実施等が新たに記載された。

令和4年度事業では、各都道府県において薬剤師確保計画を策定する際の参考となるよう、各種統計情報を用いて薬剤師の偏在の度合いを示す指標を算出するとともに「薬剤師確保計画ガイドライン」を作成し、公表した（令和5年6月）。

本事業では、薬剤師が不足している地域において、都道府県や地域の病院薬剤師会・薬剤師会等と連携し、薬剤師が不足する医療機関・薬局に対する薬剤師確保の支援を行うための体制を整備する事業を実施し、得られた成果・知見等の共有を図ることで、同様の課題を有する他の地域における薬剤師の偏在の解消に繋げることを目的とする。

2 事業の概要・スキーム

薬剤師が不足する医療機関・薬局を支援する体制の整備に係る以下のような取組を実施するモデル事業を公募

(1) 地域の連携体制の構築

- 都道府県、地域の病院薬剤師会・薬剤師会等が連携し、薬剤師の偏在解消に取り組むコントロールタワーの確立
- 都道府県内の薬剤師の不足・充足の状況を把握し、優先的に支援すべき医療機関・薬局を判断
- 薬剤師の派遣・斡旋の協議・調整
- 就労希望薬剤師の復職支援（復職研修等）

(2) 事業の実施成果の把握

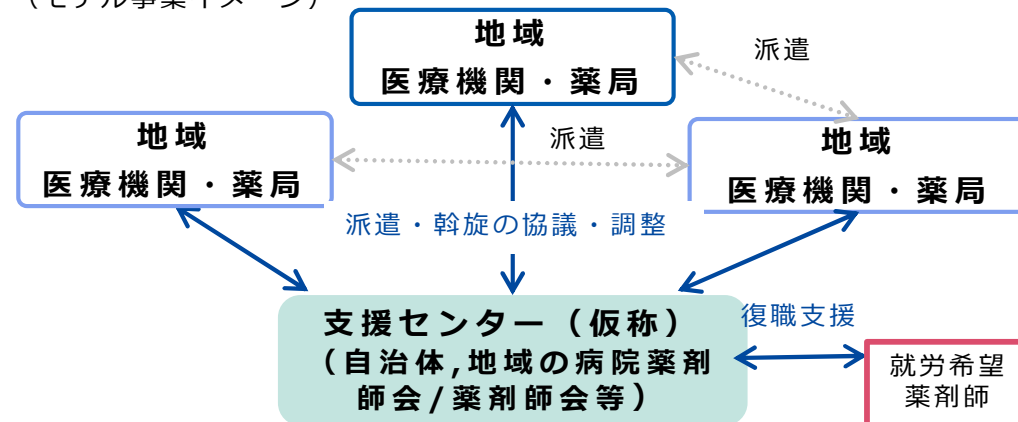
あらかじめ評価指標を設定し、取組成果を把握

(3) 実施成果の情報発信

事業内容、明らかになった課題、課題に対する今後の対応策等の検討内容を含む実施成果を情報発信

実施体制

(モデル事業イメージ)



3 実施主体等

実施主体 都道府県

補助率 10 / 10

北海道、岩手県、山形県、
埼玉県、岡山県、愛媛県で実施

	事業内容及びポイント	調査・検討体制	取組の成果
北海道	①病院、薬局に対するアンケート調査 ②薬剤師確保対策検討会の実施③薬剤師確保計画策定	北海道庁医務薬務課、北海道薬剤師会、北海道病院薬剤師会、北海道医師会、北海道病院協会、全国自治体病院協議会北海道支部、北海道大学、北海道科学大学、北海道医療大学、市立根室病院、札幌医科大学附属病院薬剤部	アンケート調査により <u>薬剤師派遣対象とする医療機関の優先順位の把握</u> 、 <u>区域や業態ごとの業務・給与等を把握</u> できた。得られた基礎データを元に北海道薬剤師確保計画を策定した。
岩手県	①薬剤師確保対策検討会の設置②病院、薬局、薬剤師、薬学生に対する意識調査③薬剤師確保の具体策の検討	岩手県健康国保課、岩手県薬剤師会、岩手県病院薬剤師会、岩手医科大学薬学部、岩手県医療局	支援が必要な <u>医療機関の選定基準</u> を策定した。 調査により薬剤師確保施策について有益な情報が得られた。
山形県	①薬剤師充足度に関する調査②要支援医療機関の選定基準の策定③要支援医療機関の選定④要支援医療機関への支援体制スキームの構築⑤医療機関のマッチング、モデル派遣事業（1施設1ヶ月）の実施⑥モデル事業の効果検証および運用拡大に向けた検討	山形県健康福祉企画課、山形県病院薬剤師会	薬剤師が不足する病院への薬剤師を派遣する体制整備のため <u>コントロールセンターを設置</u> 。要支援医療機関の選定基準を策定し、 <u>支援体制スキームを構築</u> した。
埼玉県	①薬剤師偏在状況について実態調査②薬学生の意識調査③関係団体からの意見聴取	埼玉県薬務課、埼玉県薬剤師会、埼玉県病院薬剤師会、埼玉県医師会、日本薬科大学、城西大学	偏在状況等について把握できた。 <u>関係団体との連携が深まった</u> 。
岡山県	①病院薬剤師確保のためのヒアリング調査②薬剤業務向上加算に係る出向薬剤師の受入れに関する意識調査③学会でのリクルートコーナーの設置	岡山県医療安全課、岡山県病院薬剤師会	医療機関における薬剤師不足の実態把握ができた。 <u>薬剤師の出向を希望する医療機関を把握</u> できた。
愛媛県	①薬剤師確保プロジェクトチームの設置②薬剤師情報発信基盤の構築③病院・薬局の薬剤師確保状況調査④薬剤師の魅力発信⑤教育プログラムの構築検討	愛媛県薬務衛生課、愛媛県薬剤師会、愛媛県病院薬剤師会、松山大学薬学部	<u>情報発信基盤（ウェブサイト）により薬剤師の魅力や医療機関等の情報発信</u> ができるようになった。 <u>関係団体等との連携体制の構築により薬剤師の資質向上を含めた検討を行うこととなった</u> 。

北海道薬剤師確保対策検討会

1 開催目的

薬剤師確保のための施策の検討及び北海道薬剤師確保計画を策定するため、**北海道薬剤師確保対策検討会**※1（以下「検討会」という。）を開催

2 構成員

※1 附属機関等の設置又は開催及び運営に関する基準（平成10年3月30日制定、令和2年4月1日一部改正）第2（2）に定義する「懇談会」のうち常設のもの。

検討会は薬剤師会、病院薬剤師会、薬学教育機関関係者、その他医務薬務課長が選定した12名の委員によって組織

3 協議事項

薬剤師確保のための調査や**北海道薬剤師確保計画**、**薬剤師確保のための取組**、に関する事項等について協議

●薬剤師確保のための調査

・薬剤師確保のための調査項目、調査結果の分析方法 等

●北海道薬剤師確保計画

・計画の構成や素案、計画案

-薬剤師確保の方針（道全体及び第二次医療圏ごと）

-目標薬剤師数の考え方や少数区域等における目標薬剤師数

-目標薬剤師数達成のための取組（道全体、地域・業態偏在是正の取組）

-病院薬剤師の確保の取組 等

●北海道薬剤師確保計画

・地域薬剤師確保推進事業の効率的な運用について 等

薬剤師確保のための調査

1 調査目的

薬剤師偏在指標だけでは把握しきれない、北海道内の薬剤師の就業実態を把握し、薬剤師確保策を検討する上での基礎データとする

2 調査方法

北海道内の病院、薬局及び当該施設に従事する薬剤師を対象としたアンケート調査を外部委託により実施

3 調査項目

以下の項目について業態別、薬剤師区域別に調査

●病院・薬局向け

病院・薬局の基本情報、薬剤師の充足状況、薬剤師の勤務状況、求人活動状況、給与、福利厚生、薬剤師確保に向けた取組

●薬剤師本人向け

回答者の基本情報、勤務地、勤務先、今後の転職希望

結果を踏まえ検討すべき方策

- 1 **給与水準等の情報発信**（調査結果を基にした的確な情報発信）
- 2 **勤務環境の改善**（医療機関の勤務環境改善につながる助言）
- 3 **短期派遣・長期出向**（マッチング支援による効果的な薬剤師派遣）
- 4 **地方部での薬学実務実習**（地域の魅力を通じた将来的な薬剤師確保）

北海道薬剤師確保計画

<概要>

●北海道薬剤師確保対策検討会での協議及び薬剤師確保のための調査結果を踏まえ、北海道薬剤師確保計画を策定

●道内の第二次医療圏ごとの薬剤師偏在指標を算出し、薬剤師少数区域等の設定

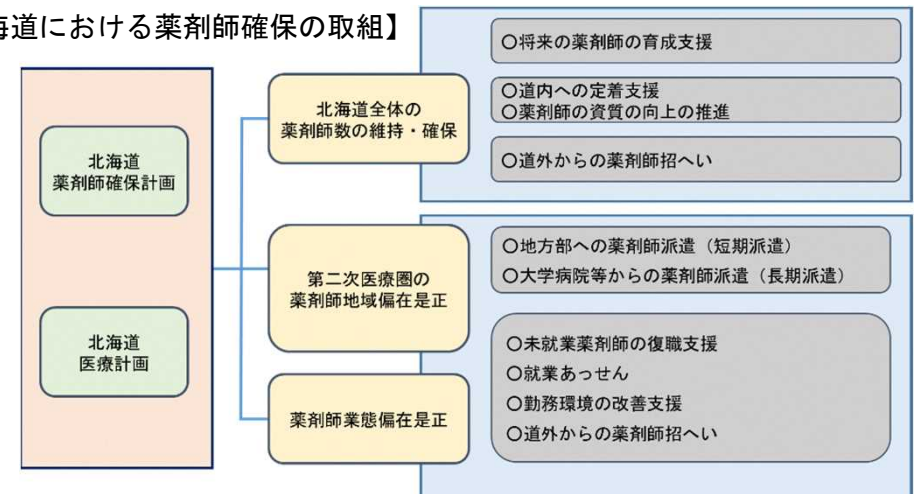
●道全体及び区域ごとの薬剤師確保の方針を設定

●薬剤師少数区域における目標薬剤師数を設定

●目標薬剤師数を達成するための道における薬剤師確保の取組を右図のとおり整理

令和7年度から本計画に沿った薬剤師確保の取組を進めていくことで、**薬剤師の地域・業態偏在是正**に取り組んでいく

【北海道における薬剤師確保の取組】



令和6年度岩手県薬剤師確保のための調査・検討事業（事業内容・成果）

地域の基礎データ

- 岩手県は、病院薬剤師少数都道府県
- 病院薬剤師は7医療圏で薬剤師少数区域
- 薬局薬剤師は宮古・久慈圏域で薬剤師少数区域

事業全体のポイント

- 岩手県薬剤師確保対策検討会の設置
- 病院及び薬局並びに薬剤師及び薬学生に対する調査の実施
- 調査結果を踏まえた具体策の検討

事業の経過・内容

- 検討会開催(6/24 8/23 12/20 3/21)
- 調査実施（11/20～1/14）
- 調査結果報告（2/28）

取組の効果（評価指標）

- 調査結果から病院薬剤師の充足について足りないと回答した割合が大きいこと、募集人数に対する採用人数の割合が少ないことなどから、病院薬剤師の確保を優先的に実施する。
- 今後実施したい業務では、知識、技能、資質が求められる業務があげられていることから、薬剤師臨床研修ガイドラインを参考に研修プログラムを策定し、かつ実行できる病院を支援対象とする。

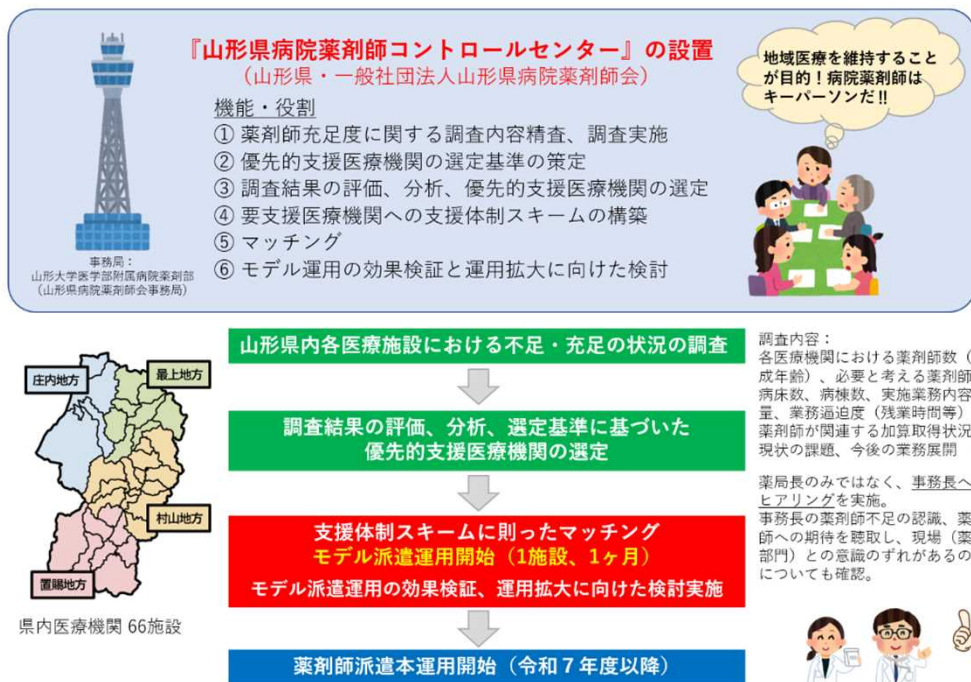
今後の事業展開

- 検討会及び調査において希望の声があった合同就職説明会の開催
- 病院薬剤師確保のための具体策の制度設計、公表

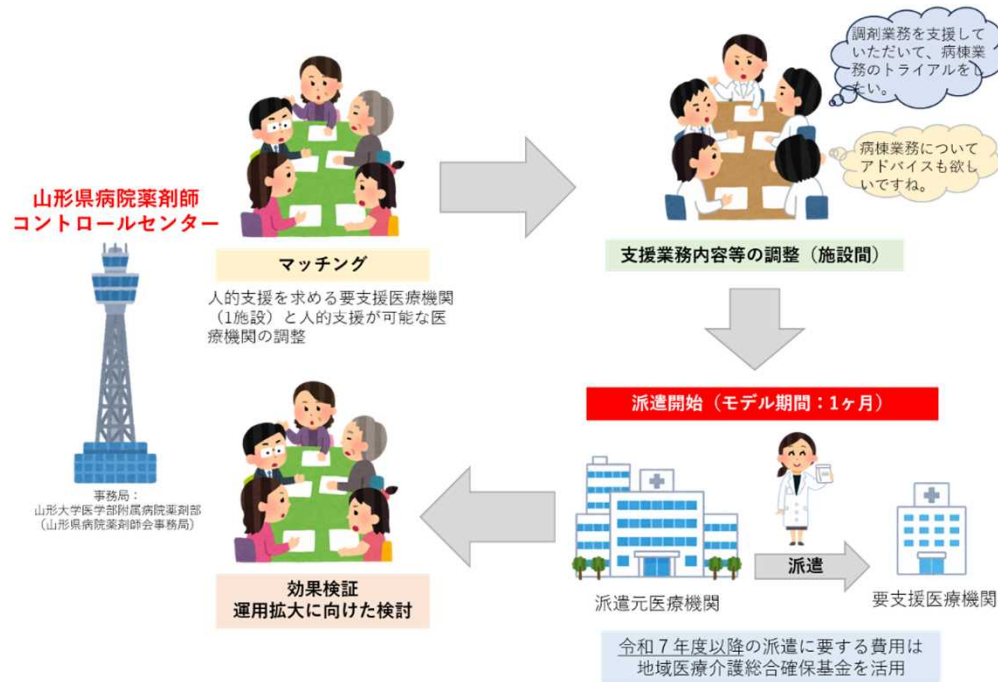
令和6年度山形県薬剤師確保のための調査・検討事業（事業内容・成果）

山形県

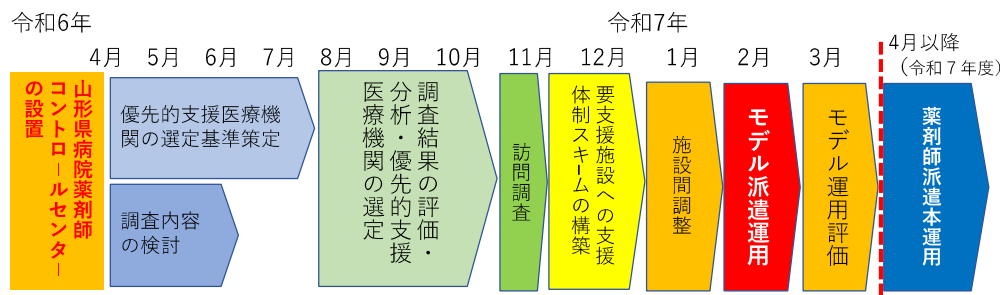
本応募事業の概要



薬剤師派遣のモデル運用



本事業の実施スケジュール



評価指標

- 優先的支援医療機関の選定基準の策定
- 山形県内における薬剤師不足の医療機関数
- 薬剤師不足の医療機関における薬剤師数
- 要支援医療機関への支援体制スキームの構築
- モデル派遣運用による要支援医療機関の業務内容の変化、特に病棟業務への影響

モデル派遣事業の成果

《主な業務内容》

- 業務内容の説明
- 一般調剤業務
- 薬剤管理指導業務
- カンファレンス参加
- 入院時間き取り、持参薬鑑別
- 一般調剤業務
- 薬剤管理指導業務
- カンファレンス参加
- 入院時間き取り、持参薬鑑別
- 退院時指導
- 一般調剤業務
- 薬剤管理指導業務
- カンファレンス参加
- 入院時間き取り、持参薬鑑別
- 退院時指導

《業務実績》

①薬剤管理指導件数

令和7年1月	令和7年2月 (モデル派遣事業期間)
未算定	薬剤管理指導 77件 退院時薬剤情報管理指導 31件

②カンファレンス、委員会等への参加

- 週3回行われる各科カンファレンスへの参加
- NST褥瘡委員会への参加
- 感染対策委員会への参加
- 薬事委員会への参加

目的

令和5年6月に示された「薬剤師確保計画ガイドラインについて」において、都道府県ごとに地域の実情に即した薬剤師確保の取組を推進することが求められている。

埼玉県の薬剤師偏在指標は、病院薬剤師「0.75」（薬剤師少数県）、薬局薬剤師「1.08」であり、病院薬剤師の確保が課題となっている。

県内の薬剤師偏在の実情を把握するためのアンケート調査を実施し、薬剤師確保のために必要な施策を策定する。

施策のとりまとめ

1. アンケート調査結果を踏まえ薬剤師確保のための施策をとりまとめ
2. 薬剤師確保のための施策（案）に係る会議の開催（関係団体からの意見聴取）
3. 埼玉県地方薬事審議会での審議

↓

令和 6 年度埼玉県薬剤師確保に係るアンケート調査報告書

埼玉県における薬剤師確保のための施策（令和 7 年度～令和 8 年度）

アンケート調査の概要

調査対象：県内の病院、薬局、病院又は薬局に勤務する薬剤師、
県内所在薬科大学（2校）の学生

調査期間：令和6年6～8月（7週間）

主な調査項目：薬剤師の確保状況（定員、充足状況等）、薬剤師確保の
ための取組の実施状況、希望する勤務先・勤務地域

回収結果：

	対象種別	対象件数	回答数	回答率
1	病院	341施設	198施設	58.1%
2	薬局	3,201施設	1,219施設	38.1%
3	薬剤師本人	13,718人	2,226人	16.2%
4	薬学生 1 年生	316人	153人	48.4%
5	薬学生 5 ・ 6 年生	695人	314人	45.2%

今後の展開（薬剤師確保のための施策の実施）

以下の取組を実施することで、県全体の薬剤師数の底上げを図るとともに、病院薬剤師少数区域の解消を図る（令和7～8年度）。

- 施策① 病院薬剤師の養成支援「病院薬剤師の定着及び偏在解消事業」
- 施策② 業務効率化の支援「I C Tの活用を含めた業務効率化事業」
- 施策③ 薬剤師の資質向上のための取組の支援「在宅医療に対応した薬薬連携の推進事業」
- 施策④ 高校生を対象とした取組の支援「高校生を対象とした職業体験事業」
- 施策⑤ 薬学生を対象とした取組の支援「薬学生向け事業」
- 施策⑥ 人材マッチング支援「病院薬剤師の人材マッチング支援事業」
- 施策⑦ 潜在薬剤師の復職支援「潜在薬剤師の復職支援事業」

令和6年度岡山県薬剤師確保のための調査・検討事業（事業内容・成果）

【概要及び事業内容】

当県の「病院薬剤師偏在指標」は0.85となっており、薬剤師少数県に該当し、病院薬剤師確保のための対策が求められている。実態を把握すべく、令和5年度に県病院薬剤師会と協同で、県内の医療機関を対象とした「薬剤師確保に係る実態調査」を実施した。当該調査では、約7割の医療機関が、薬剤師が十分に足りていないと認識していることが分かった。また、県内に2つの薬学部があるにもかかわらず、県内の病院への就職者が十分にいないことも分かった。

< 病院薬剤師偏在指標 >

	偏在指標	分類
全国	0.80	—
岡山県	0.85	薬剤師少数県
二次医療圏	県南東部	0.93
	県南西部	0.89
	高梁・新見	0.41 薬剤師少数区域
	真庭	0.49 薬剤師少数区域
	津山・英田	0.56 薬剤師少数区域

1 病院薬剤師確保のためのヒアリング調査

病院薬剤師が不足している二次医療圏の医療機関にヒアリング調査を実施し、薬剤師不足の現状、課題等について把握した。

2 薬剤業務向上加算に係る出向薬剤師の受入れに関する意向調査

県内全病院を対象に、出向薬剤師の受入れに関する意向を把握することを目的に実施した。

【回答率】 51.6%（82施設／159施設）

希望する：14施設 希望しない：58施設 どちらでもよい：10施設

3 リクルートコーナーの設置

日本薬学会において、病院薬剤師確保に係るリクルートコーナーを設置し、県内外出身の薬学生等22名が来場し、病院薬剤師の業務内容、勤務状況等について発信した。

【今後の予定】

令和6年度は医療機関に対して事業を実施したため、今後は県内の薬学部と連携し、県内の病院への就職希望者を確保できるような体制を構築する。また、薬学部の講義で、病院に勤務している薬剤師が講師となり、病院薬剤師の役割、やりがい等についてセミナーを実施する。

現状

- 病院・薬局が個別に求人情報等を発信しており、情報が分散（一元化されていない）
- 就職を希望する薬剤師や薬学生等に、必要な情報が届いていない（情報発信力が弱い）

事業方針

- 県内の病院・薬局の薬剤師確保に関する 情報の一元発信
 - 薬剤師としての働きがいやキャリアアップなど、魅力の発信強化
- ⇒ 県内外の薬剤師・薬学生の確保に資する

愛媛で薬剤師 えひめライフ

